

油田残存遺構リスト

分類	番号	名称	初開削・創建年	構成要素
(1) ポンピング パワーに 接続する 油井	ア	C7号井	明治37(1904)年	櫓、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、引き綱、その他付属家、機械など
	イ	C14号井	明治38(1905)年	櫓、ワイヤー、ポンピングジャック、溜め桶、パイプライン、引き綱、招木、その他付属家など
	ウ	C15号井	明治38(1905)年	櫓、ワイヤー、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、引き綱、招木、その他付属家など
	エ	C16号井	明治39(1906)年	櫓、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、引き綱、招木・トンネル、その他付属家など
	オ	C19号井	明治41(1908)年	櫓、ポンピングジャック、ブルホイール、パイプライン、引き綱、招木など
	カ	C38号井	明治42(1909)年	櫓、ワイヤー、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、ストローク調整器具、引き綱、招木・トンネル、その他付属家など
	キ	C39号井	不明	櫓、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、引き綱
	ク	C57号井	明治44(1911)年	櫓、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン
	ケ	C59号井	明治44(1911)年	櫓、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、ストローク調整器具、引き綱、その他付属屋など
	コ	C72号井	明治45(1912)年	櫓、ワイヤー、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、引き綱、招木・トンネル、その他付属家など
	サ	C86号井	昭和16(1941)年	櫓、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、ストローク調整器具、引き綱、その他付属家など
	シ	C87号井	昭和16(1941)年	ワイヤー、ポンピングジャック、溜め桶、パイプライン、ストローク調整器具、引き綱
	ス	K84号井	大正6(1917)年	櫓、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、招木、引き綱
	セ	K85号井	大正6(1917)年	櫓、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、引き綱、招木
	ソ	K98号井	大正6(1917)年	櫓、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、ストローク調整器具、招木、引き綱
	タ	K120号井	大正8(1919)年	櫓、ポンピングジャック、溜め桶、パイプライン、引き綱、招木
	チ	K137号井	大正9(1920)年	櫓、溜め桶、パイプライン
	ツ	K199号井	大正9(1920)年	櫓、溜め桶、パイプライン、招木、引き綱
	テ	K210号井	昭和5(1930)年	櫓、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、引き綱、招木
	ト	K215号井	昭和13(1938)年	櫓、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、引き綱、招木
ナ	K217号井	昭和13(1938)年	櫓、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、引き綱	
ニ	K218号井	昭和13(1938)年	櫓、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、引き綱、招木	
ヌ	K220号井	昭和14(1939)年	櫓、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、引き綱	
(2) ポンピング パワー及び 単独井戸・ 継転機	ア	ポンピング パワー及び上 屋	ポンピングパ ワーは大正7 (1918)年、上屋 は大正9(1920) 年	機械: モーター、車輪、ベルト滑車等 建屋: 木造平屋、切妻平入りトタン葺き、RC独立基礎、トラス小屋、外壁一部トタン張り、一部コンクリート柱 引き綱、周辺に招木・トンネル等の設備あり 上屋は木造平屋
	イ	C3号井	明治36(1903)年	櫓、ワイヤー、ポンピングジャック、ブルホイール、溜め桶、パイプライン、引き綱、招木、その他付属家など
	ウ	1号継転機	不詳	機械(継転機)、引き綱、招木
	エ	2号継転機	不詳	機械(継転機)、引き綱、招木
	オ	3号継転機	不詳	機械(継転機)、引き綱、招木、覆屋、溜め桶
	カ	4号継転機	不詳	継転機、引き綱、招木、覆屋、ブルホイール、鉄の部材(詳細不明)
	キ	5号継転機	不詳	機械、引き綱、招木・トンネル等の設備、覆屋
ク	6号継転機	昭和期か	機械を発見できなかった。 鉄棒など、残存遺構と思われるものあり。	

油田残存遺構リスト

分類	番号	名称	初開削・創建年	構成要素	
(3) 精製関連施設	ア	集油所	明治40(1907)年頃と思われる	コンクリート製溜め桶3基及び集油、送油パイプ群からなる鉄骨覆屋(後補と思われる)	
	イ	送油所	大正6(1917)年	木造平屋、屋根:切妻妻入り瓦葺き、外壁:大壁漆喰塗り(土蔵風)煉瓦基礎、木製扉	
	ウ	集油タンク	昭和59(1984)年竣工	大型タンク:RC造の囲いが設けられている。 中型タンク:RC造基礎の上に設置されている。 パイプ群:地中から中型タンク上部に接続、中型タンクから大型タンク上部に接続、大型タンク上部から計量タンクに接続。小型タンクは地中からパイプが接続する。 この他、鉄骨造メンテナンス用階段がある。	
	エ	計量タンク	明治40(1907)年頃と思われる	ほぼ同規模のタンクであるが、直径と高さを変えてある。 半径が小さめで高いタンク、半径が大きめで低いタンク、集油タンクから高いタンクに連結するパイプ、高いタンクから低いタンクへ連結するパイプ、メンテナンス用の鉄製階段2本、チューブ、鉄製の蓋、東側側溝	
	オ	加熱炉	昭和43(1968)年頃と思われる	レンガ造加熱炉2基、鉄製煙突付属、小規模のレンガ造加熱炉1基併設、東側に鉄製小型タンク3基(4-10)、鉄骨覆屋、水切りタンクにつながるパイプ群	
	カ	水切りタンク	昭和43(1968)年頃と思われる	同規模の鉄製タンク2基、集油所から連結するパイプ、加熱炉につながるパイプ、加熱炉につながるパイプ補修の槽、目隠し木塀、各タンクに鉄製はしご、鉄製の蓋	
	キ	受け渡しタンク	昭和43(1968)年頃と思われる	鉄製タンク1基、RC造の囲いあり。鉄骨造平屋の小屋が併設、メンテナンス用階段	
	ク	送油場所	昭和43(1968)年頃と思われる	アスファルト舗装、送油用バルブ2基、側溝	
	ケ	ポンプ	昭和58(1983)年に移転か	ポンピングジャック1基、ワイヤー(ポンピングパワーに連結していると思われる)等	
	コ	加熱炉横のタンク群(仮)	昭和43(1968)年頃と思われる	南側タンク:鉄製架台の上に設置、モーター1基 北側タンク:タンク東側に鉄製小屋及び小屋内部にモーター1基 パイプ及び三角状の屋根	
(4) 管理施設	ア	旧木工所	大正13(1924)年(推定)	木造平屋、屋根:切妻平入り瓦葺き、外壁:大壁漆喰塗り、基礎レンガ積み、瓦葺き庇あり その後、事務所として使用	
	イ	丸泉倉庫(仮)	不詳	屋根:切妻妻入り瓦葺き、外壁:トタン板貼り、腰壁一部モルタル塗り壁 開口部:アルミサッシ窓、入口はシャッター	
	ウ	旧電工場	昭和3(1928)年(推定)	屋根:寄棟妻入り瓦葺き、外壁:トタン貼り、腰壁はレンガ貼り 開口部:アルミサッシ 屋根:寄棟妻入り瓦葺き、外壁:トタン板貼り、現在は個人住宅	
	エ	手配所 旧夜警室	昭和4(1929)年(推定)	屋根:切妻妻入り瓦葺き、外壁:大壁漆喰塗り 現在は個人住宅	
	オ	火力発電所跡	不詳	コンクリート、煉瓦遺構	
	カ	暖室 (土人小屋)	不詳	屋根:切妻妻入り板葺き、外壁:木造板貼り 木製建具、モルタル土間	
	(5) 住宅等	ア(ア)	一号社宅 (推定)	大正3(1914)年(推定)	木造平屋、一部二階建て、切妻平入トタン葺き 幹部用社宅
		(イ)	二号社宅 (推定)	大正12(1923)年(推定)	木造平屋、一部二階建て、切妻平入トタン葺き、外壁下見板 幹部用社宅
		(ウ)	四号社宅 (推定)	大正3(1914)年(推定)	木造平屋、切妻平入トタン葺き、外壁下見板 二間長屋
		(エ)	社宅	不詳	木造平屋、切妻平入トタン葺き、外壁下見板 二間長屋、九号社宅か
(オ)		社宅	不詳	木造平屋、切妻平入トタン葺き、外壁下見板	
(カ)		社宅	不詳	木造平屋、切妻平入トタン葺き、外壁下見板 二間長屋	
イ		共同浴場		木造平屋、切妻平入トタン葺き、外壁下見板 煙出付き、一部のみ残存	